

JFA

skyhoundz news™

日本フリスピードッグ協会会報 1998 DEC.
Vol. 12 スカイハウンドニュース

FRISBEE DOG
EVENT



Merry X'mas



JFA クラブメンバーのみなさんへメッセージ

会長 ピーター・ブルーム



今年の東京でのジャパンファイナルと長岡でのスーパードッグスコンペティションのジャッジと観戦を終えて、ちょうど日本から帰国して家に着いたところです。

参加している皆さんの意気込みと競技に対する情熱を見ることができとても満足しています。全員が勝ちたいのはすごく当然ですが、一チームしかそのゴールに到達することはできません。重要なことはいかに自分の犬と楽しみ、そしてイベントに参加し友人や家族と楽しい時間を過ごすかということです。

ジャパンファイナルでは新しいチャンピオンが生まれましたが、次の大会、次のジャパンファイナルではさらにまた新しいチャンピオンが誕生する可能性も充分あります。そしてそのチャンピオンになることがいかに名誉なことかは、全てのフリスピードッグ愛好者の情熱にかかっています。

長岡でのスーパードッグスコンペティションは今年からはじまったイベントです。選手としてまたは観戦者としてでもいいので、是非皆さんにこの素晴らしい大会に参加することをお勧めします。この大会は美しい競技場で開催され、犬とのスポーツがたくさんあって本当に楽しい大会でした。

最後に、私も家族一同で皆さんと皆さんの家族が素晴らしい年を迎えることをお祈りしています。1999年は、皆さん、皆さんの愛犬、そして日本フリスピードッグ協会にとって、もっと素晴らしい年になるように頑張りましょう。



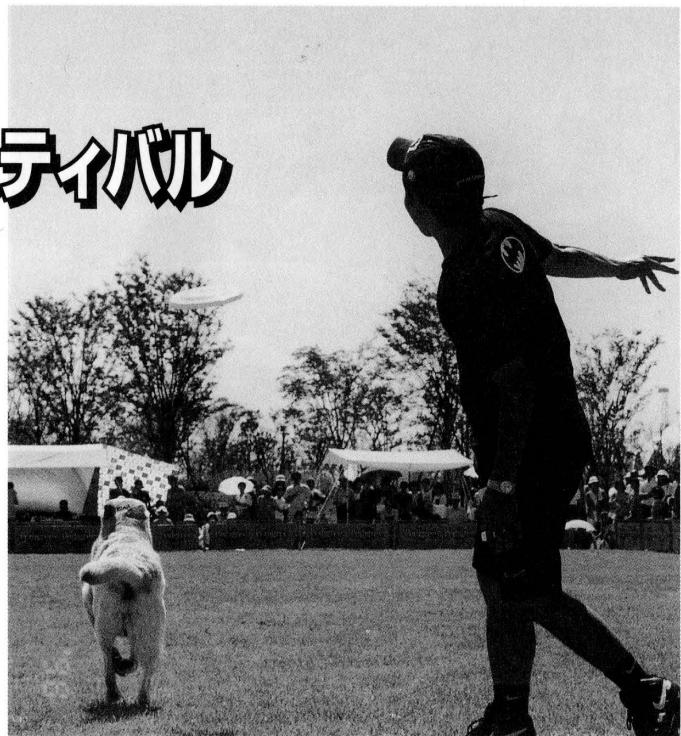
フリスピードッグ フェスティバル in 緑化にいがたフェア

9月19日(土)・20日(日)

新潟県新潟市

「緑化にいがたフェア内 環のエリア」

レポート：ライターを目指す、フリスピードッグ
ファンシャー 吉田 順一さん



公式オープントーナメント大会

公式シリーズの前哨戦とも言うべき、トーナメント大会でしたが、いさか波乱含みの展開になった。この日は風が強い上に、フィールドを斜めに横切るように吹いていたため空中に放たれたフリスピーカーが横流れてしまうことが多かった。また、やや向かい風であるためフリスピーカーが浮き上がりてしまい犬が的を見失いややすい状況だった。そのためだろう、フィールドで立ち往生したり、ぐるぐると回りだす犬が多い。投げ手にもいつも以上にプレッシャーがかかるコンディションだ。

勝負の鍵を握ったのはスタートラインの選択である。より追い風に近い方向から投げて飛距離を稼ぐか、向かい風に投げてフリスピーカーを浮き上がらせジャンプでポイントを稼ぐか、いずれにしても犬の脚力、ジャンプ力、性格、自分の腕を冷静に計算して決めなくてはならない。

こうした難しい条件の中、優勝候補の一人である井上&DIZZYペアが予選で敗退してしまった。風に流されるフリスピーカーをDIZZYがうまくキャッチできなかったためだ。二人にとっては納得できない結果だろうが、こうした自然条件に左右されるのもフリスピードッグの奥の深さだろう。結局、この大会を制したのは、やはり優勝候補のヒロサイトー&エリーゼペアだった。勝負慣れした二人の冷静さがフィールドを支配していた。

各自が実力を試すにはあまりにいい条件ではなかったが、それだけに各チームの特徴もよく表れていた。明日の公式戦が楽しみである。

チャレンジ大会

「フリスピードッグにボーダーコリーがむいている事はわかっている。でも、俺は黒のラブラドールのかっこ良さにこだわりを持っているから。」栃木の堀江さんは愛犬クロスへの思いをそう語った。

常連の強豪達が出場する公式戦と違い、思いがけない展開を見せるのがこのチャレンジ大会だ。犬種もボーダーコリーとラブラドールに加え、柴犬からノバスコシア、バーニーズマウンテンドッグ、ワイマラナーと様々だ。また、犬達の個性も見ていて楽しい。ワイマラナーの仙田ケンケンは本番になるとくつろいでしまう、超マイペースな犬だ。ウェルシユコーギーの白足袋小一郎は短い足でも必死にフリスピーカーを追いかけ、キャッチしようとして思わず顔にぶつけてしまった。ラブラドールのアンディはボーダーコリー顔負けのダッシュ力を発揮する。

笑いあり、歓声ありの試合内容だが、初参加のペアもリラックスして試合を楽しんでいる。初心者のペアが経験を積み、自信につけるには最適の環境かもしれない。



公式シリーズ第8戦

突然、「彼女」の足が止まった。まるで夢から醒めたかのように、フリスピーカーをくわえたままキヨロキヨロと周りを見渡す。慌てた相棒が必死に手招きをする。「彼女」はのんびりと近づいてくる。「あと20秒！」時間が無い。ようやくスタートラインに戻った。相棒がフリスピーカーを取り上げ、力任せに放る。その瞬間ベルが鳴った。





1998年9月20日、新潟県のにいがた緑化フェアにおいて「公式シリーズ第8戦」が開催された。総勢58チームが参加し、上位25チームが第2ラウンドに進出する。この日の新潟は最高気温30度を越す猛暑に見舞われたため、体調を維持するのが大変難しく、競技中にトイレ休憩に入る犬も現われた。第2ラウンドにおいては前日の公式トーナメントで上位入賞したチームが順調にポイントを稼ぐ。特に、前日決勝直前で敗退してしまった井上& DIZZYペアが46ポイントを獲得し、予選2位で決勝進出を果たした。また、地元開催ということもあり、新潟県からの出場者達も健闘した。

決勝に進出したのは全部で7チーム。上位と下位のチームが10ポイント差の中でひしめき合う接戦である。各自に優勝の期待がかかる中、決勝ラウンドが始まる。

まず最初に登場したのが、地元・新潟代表の須藤&チットペアだ。チットはゴールデンとボーダーコリーのミックスであり、「両方の良い所が組み合わされた」(ヒロ・サイトー談)秀犬である。追い風のせいでやや飛び過ぎたフリスビーをボーダーの駿足でキャッチする。また最後の一投は取り損ねたものの、フリスビーにむかっていく闘争本能はゴールデンの血を感じさせる。

2番手は神奈川代表の田辺& TUFFYペア。元気が良く戻りのダッシュが速いTUFFYだが、やや元気が良すぎるせいかジャンプの際、鼻でブッシュして取り損ねてしまう。しかし、低い弾道のフリスビーを猛烈なダッシュでキャッチするなど見事なフォローも見せた。

続いて登場したのは、東京の菅沼& ジュディペア。上位チームの犬種がほとんどボーダーコリーで占められている中、唯一のダルメシアンである。たくましい後ろ足が地面を蹴り、白い体が空中で大きく伸びる。一瞬、冬期五輪の船木選手の姿が重なる。「飛行点」は満点だ。競技の方は4回連続でジャンピング・キャッチを成功させ、58ポイントを獲得した。

次は、東京の横田& こなつペアが出場した。第2ラウンドのみで17ポイントを得たチームで、こなつの駿足に期待がかかる。1投目は落ち着いてキャッチ。2投目もフリスビーをよく見ていたが、タイミングが合

わず取り損ねてしまった。3投目は成功したものの、4投目のジャンプでも頭でブッシュしてしまい決勝では10ポイントを獲得するにとどまった。

5番手も同じく東京代表の菅沼& マルタンペアで、1度練習を入れてからのスタートだ。この日は暑さのため練習を見送るチームが多かったが、このチームだけは最後の調整に余念がない。この練習が良かったのか、からだを宙でひねってフリスビーをキャッチする姿が見事に決まる。また、フリスビーを運び終えるとすぐにダッシュするなど、コンビネーションの高さを見せつけた。

「ウオオオー！！！」という雄叫びと共に現れたのは、東京の井上& DIZZYペアだ。スタート前にフィールドをぐるっと1周し、その存在感を充分にアピールする。「こいつはお客様がいればいるほど、動きが良くなるんですよ。」井上さんの言葉通り、DIZZYの動きは全く疲れを感じさせない。豊富な運動量でフィールドを横断し、低い弾道のフリスビーも難なくキャッチする。元気の良さでは、パートナーも負けてはいない。DIZZYのキャッチが決まるたび、シュートを決めたJリーガーのごとく拳を高々と突き上げて歓声をあげる。

最後に登場したのは、前年度シリーズチャンピオンのヒロ・サイトー&エリーゼペアだ。「今日はあんまり調子が良くないんだよね。」そうばやいていたサイトーだが、決勝まで失点はゼロ。前日の公式トーナメントでは優勝を勝ち取るなどの賞品をみせつける。この日も2投目までを空中でキャッチした後、弾道の低い3投目も問題なくカバーする。私個人の意見だが、エリーゼが特に秀でているのが走り始めてからキャッチするまでのスピードコントロールだ。ジャンピング、ランニングなどのキャッチでも1度ブレーキをかけて適度なスピードに調整している。「単にフリスビーが好きなだけ。」と相棒は笑うが、エリーゼが常に高ポイントを維持するのはこの辺に秘密がありそうだ。

しかし、4投目を成功させた後にちょっとした異変が起こった。エリーゼがフリスビーをくわえたまま立ちすくんでしまったのだ。なんとかサイトー氏がフリスビーを取り上げ、空中に放る。同時にベルが鳴った。会場中の視線が審判に集中する。結果はセーフ。有効ポイントと認められ、全部で27ポイントを獲得した。まったく、最後まで見せ場を作ってくれる大会だ。

みなさん、暑い中本当に疲れさまでした。



子供大会

フリスビーを離さなかったり、元気が良すぎてフィールドから飛び出したり、のんびりとトイレ休憩に入ったりと「子供大会」というだけあって、予測不可能の試合展開です。長野県の倉科早紀ちゃんなどは、相棒のレトがフリスビーの上でトイレ休憩に入ったのをみて、思わず倒れこんでしまいました。一方で見事な活躍を見せるチームもいます。東京の上杉聖人君はフリスビーを大人顔負けの飛距離で投げ続けます。「もう少し犬が子供になつてくれればね。」とお父さんは言いますが、1ラウンドで17ポイントも獲得すれば素質は充分です。また、公式戦ではやや不本意な結果に終わった群馬の田中家のミニーもこの大会では体

空中でひねった見事なバックキャッチを披露します。

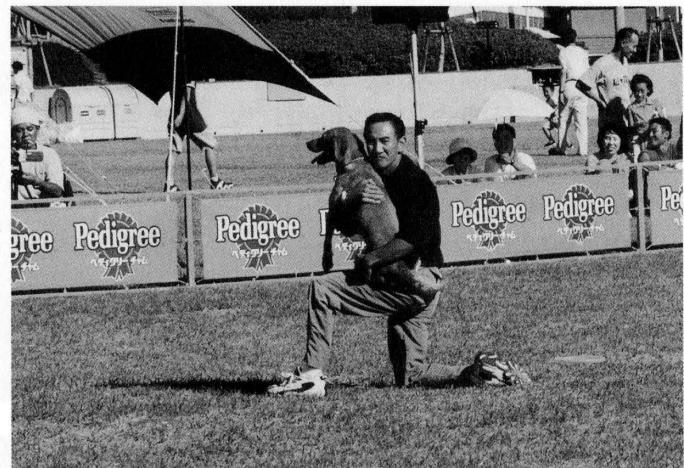
競技の中ずっと笑いが絶えない「子供大会」でしたが、この「笑い」に含まれる明るさも、フリスピードッグの大切な魅力だと思います。だから、成績があまり良くなかった人も決して気を落とさないでくださいね。



フリーフライト大会

「READY, GO！」合図と共に黒い塊がフィールドを疾走する。BGMから流れる小刻みのリズムにのって、フリスピーが次々と放られる。赤、白、ピンクと色とりどりの5枚のフリスピーをくわえパートナーの体をくぐる。パートナーが足を差し出した。その上をジャンプ。フリスピーをキャッチして着地。拍手が起こった。再び後方ひねりを加えた体が宙を舞う。最後にパートナーの胸に飛び込んだ。パートナーががっしりとキャッチ。すかさずガッツポーズが出る。「決まった！！」パートナーの心の叫びが聞こえてきた。

今までの競技とは一味違ったフリーフライト大会である。犬との「連続プレー」を難易度や成功率といった視点から採点されるため参加者はやや厳しい条件かもしれない。しかし、広いフィールドを思い切り使って犬と遊ぶと思えばこれ以上の楽しさはないはずだ。また、犬だけではなくパートナーの衣装や音楽に自分の好みを加えられ、演技にも独自性が強くなる。日本ではまだまだこれからの競技だという話だが、うまくなれば1番めだつし、なによりカッコいい。冒頭の描写は今回優勝した関口＆ローザペアである。レベルの高い演技なのでここまで完成させるのはなかなか難しいとは思うが、成功すれば自分と相棒が熱い視線を独占すること間違いなしだ。今回参加しなかったチームもぜひ挑戦してほしい。フリーフライトはまだまだこれから、「熱い」競技である。



親子ペア大会

「ちょっとした家族旅行ですよ。」そう言って群馬の田中さんは微笑む。田中家は大会があると可能なかぎり家族で参加するフリスピードッグ一家だ。娘の亜実さんと共に、「三人でがんばる」と気合いが入る。今回は活発があっさりした性格のミニーと、おとなしいがフリスピーの好きなアクアの二人をエントリーした。

試合後半、疲れのせいかミニーの脚力がややおとろえたものの、ランニングキャッチで確実にポイントを積み上げる。アクアには今一つフリスピーが届かない。

最後にこの大会を制したのは、東京の長谷川家＆クムのペアである。クムはこの日だけで4試合に出場したにもかかわらず、タフな体力を發揮してチャレンジ大会の2位と共に2回表彰台に登ることになった。田中家のミニーは3位、アクアは5位という結果に終わった。

他の家族もそれぞれ新潟で有意義な休日を過ごしたようである。



男女ペア大会

フリスピードッグを見て、ふとうらやましくなる事がある。真剣勝負の中で巻き起こる笑いや歓声、また犬やそのパートナー達が見せる表情には一切「暗さ」がないことだ。

野球、サッカー、陸上とありとあらゆるスポーツは競争であり、競争である以上そこには勝者と敗者が生まれる。そして勝者になれるのも常に一握りの数だけだ。素質、性格、その日の体調と勝つためには様々な要素がからみあう。その上すべての参加者がその全部にめぐまれているわけではない。「勝つ」事を求め、これらの要素を努力して求めれば求めるほど負けた時にはその裏返しとして「暗さ」がつきまとう。「楽しむ」事がスポーツの基本であるにもかかわらず、競技に参加している選手達が楽しんでいないこともしばしばある。これはプロやアマチュアにかかわらず、スポーツが必ず持つ一面である。

ではなぜフリスピードッグには「暗さ」がないのか。勝ち負けにこだ

わっていないわけではない。しかしそれ以上に強いのが、二人を結ぶ家族同然の「愛情」である。この絆がふたりを結びつけていたため、競技を楽しむ余裕が失われていないのだ。

新井&Marucoペアもそうした「暗さ」を持たないチームの一つだ。「過去5回連続O得点」の記録を持つ彼らだが、Marucoがその小さい体で必死に走る姿が独特の愛敬になり、試合をもりあげている。ちなみに今大会ではめでたく4ポイントを獲得した。

「勝負は真剣に」しかし、「楽しむ余裕も忘れない」。フリスビードッグの明るさが全てのスポーツに普及すれば、より多くの人がスポーツを楽しめるようになるだろう。

この試合を見て、ふとそう考えた。皆さんはどう思いますか？



小型犬大会

W杯日本代表のゴールキーパー川口能活にとって最大の悩みは自分の体格についてだった。公式には181cmとされているが彼の身長は、実は179cmしかない。大柄な選手がいいといわれるゴールキーパーの世界において、180cmに1cm足りない自分の身長は、長い間彼のコンプレックスになっていた。では、川口は優秀なゴールキーパーではないのか。答えはだれもが知っている。

小さいことは不利な事か。その答えを一番よく知っているのは「彼ら」だ。

「彼ら」は走った。とにかく走った。やや緊張ぎみのMarucoも、ガツツの塊のようなエリーも、のんびりやのチャージも、プラムも白足袋小一郎も短い足を精一杯のばしてフリスビーを追った。フリスビーが横流れしてしまうこの日の風は、大型犬でさえ苦戦するようなコンディションだが、そんな風の中彼らは的が地面につくまで追い続けた。サッカーワードで言えば、彼らは本当にコラソン（魂）のある選手達である。

現在、川口は自分の身長を179cmだと公言している。もし「彼ら」にこの話をしたらきっとこんな返事が聞かえてくるだろう。「当たり前。小さい事も悪くはないよ。」



レディース大会

「いやあ、暑い！とにかく暑い！！」ふと参加者の顔を見ると、皆笑顔の上にこの言葉が張りついています。繰り返しになりますが、この日は青空が恨めしく思える程の猛暑に見舞われました。1番この被害をこうむったのは、おそらくレディース大会の出場者達でしょう。とてもとても長い公式戦第1ラウンドとハブニング続出の子供大会の後ということもあり、競技が開始されたのが午後12時過ぎです。待ち疲れのうえに1日で1番暑い時間帯が本番だったとは気の毒としか言い様がありません。「暑さにやられた」という人も決して少なくはないと思います。

しかしながら、各チームの競技内容は決して見劣りしていません。特に、公式戦で敗退してしまったチームの健闘が目につきました。公式戦では、フリスビーを思わず鼻でブッシュしてしまい「お手玉フリスビー」を演じてしまった横山&サクラペアでしたが、今大会では見事なダッシュでフリスビーをキャッチします。また、フリスビーを噛ってタイムオーバーになってしまった深田&ルビィペアも緊張がほぐれたのか、ランニングキャッチを連発し本領を発揮しました。その他にもマスクマン白足袋小一郎のマスクショーもあり、暑さに負けずに競技を楽しむ事ができました。

次の大会プログラムでは、快適なコンディションの中、皆様の競技が行われる事をお祈りいたします。





日本フリスピードッグ協会 '98 ジャパンファイナル 日本チャンピオン決定戦

レポート：ライターを目指す、フリスピードッグ ファンシャー 吉田 順一さん



赤く染まる頬。乱れる呼吸。「よし、よし。」エリーゼを落ち着かせようと、斎藤さんがしきりに胸をなでる。この日、お台場前の会場にはやや重い空気が漂っていた。その空気を感じたのか、冷静な彼女も珍しく興奮している。相棒の目も険しい。アナウンスが流れ、ヒロ・サイトーが入場する。「行け！」エリーゼが開放された。放たれた矢のごとくフィールドへ疾走する。ファイナルが開幕した。

今回、ファイナリストに選ばれたのは全部で51チーム。そのうち46チームが今大会に参加する。第一ラウンドは昨年度のチャンピオンであるヒロ・サイトー&エリーゼペアのプレーから始まった。ジャンピングキャッチを4連続で成功させた後、5投目を落としてしまったものの、21ポイントを獲得し順調な滑り出しを見せた。その後、試合は他チームがこの記録を追いかける形となる。まず高木&春（東京）、郷＆スマイル（神奈川）の両チームが5回連続のジャンピングキャッチを成功させ26ポイントを獲得。以後、試合は平行線をたどるが、後半になると団野&ケープ（大阪）が速いリターンを生かして中距離のジャンプで27ポイントを稼ぎ、最後は須藤&チット（新潟）がロングのジャンプを5回連続で決めて30ポイントを叩きだした。一方で、緊張のためか低迷するチームも存在した。出番になるとテンションが高まった犬に対してパートナーが堅くなってしまい、フリスビーの弾道が今一つ定まらない。また、いくつかの強豪チームも苦戦を強いられた。気持ちを落ち着かせるためか、ゆっくりとスタート地点に入った井上さんだが、フィールドを走り回るDIZZYとうまくコンビネーションが噛み合わず、得意のランニングキャッチが決まらない。「がんばれ！」と周囲の「犬達」も歓声をあげたが、14ポイントを獲得するにとどまった。

この時点で、第2ラウンドに進出するのが別コートでプレーしたヒート犬を含む25チームにしばりこまれた。ここまでくると互いの実力は同等である。あとは人間同士の戦いだ。中距離で投げる回数を増やしポイントを稼ぐか、犬の体力とリターンの速さを信じてロングで高得点を狙うか。決勝に進出できるのはわずか5チーム。「日本一」というタイトルが生みだすプレッシャーをうまくコントロールし、冷静に2つの作戦を使い分ける事が勝負を決める。フリスビーを服の下に隠したり、スタート前に犬を抱き上げたりと、それぞれが自分のやり方で犬と自分のテンションを調節した。

第2ラウンドは全体的に落ち着いた展開だった。序盤は中距離を繰り返してポイントを積み、最後にロングを放って競技をしめる。中盤戦ということもあってか、ほとんどのチームがこのような手堅い試合運びだった。派手なパフォーマンスよりも決勝進出を優先させた結果だろう。決勝に駒を進めたのは第1ラウンドと合わせて45ポイント以上を獲得したチームのみである。ここではヒロ・サイトー&エリーゼペア、菅沼＆マルタンペアが41ポイントと僅かにおよばず、惜しくもこの時点で敗退した。最後まで自分の堅さがとれなかったのか、納得いかないという表情でヒロ・サイトーが首を傾げていたのが印象に残る。V2を狙うコンビにとって、ミスの許されないこのラウンドは相当のプレッシャーを与えたことだろう。

決勝は以下の5チームで争われた。ここまで獲得ポイントが低い順から競技が始まられる。

1番手は横田＆こなつ（東京）ペア。パートナーの足元をぐるぐる回って「早く、早く」と急かすこなつ、「まて」を加えて1度なだめた後スタートする。前半、こなつの速いリターンを生かし2本のロングショットで高得点を得ると、残りの時間を中距離のジャンピングキャッチでまとめ確実にポイントを稼いで合計68ポイントを獲得した。試合後、横田選手は少しホッとした表情を浮かべたが、こなつの方はまだまだ遊び足りないらしく退場する時もまだフリスビーを見つめていた。

次は須藤&チット（新潟）ペアだ。ボーダーコリーとゴールデンのミックスとして有名なチットだが、スタート前も緊張のかけらすら見られず、須藤選手に胸をなでられると気持ち良さそうに尻尾を振っている。第1ラウンドで30ポイントを獲得し、会場を沸かせた2人だが決勝はすべてロングショットに狙いをさだめる。1投目はじっくりとフリスビーを見て、落下地点を予測すると、中間からグーンとのびるダッシュでランニングキャッチを成功させ、続く2、3投目は少しゆっくりとしたペースで走りジャンピングキャッチで処理した。最後のロングショットは

見失ったものの、パートナーも一緒に走ってチットの気持ちを盛り上げるなど、いいチームワークを見せた。最終的なポイントは63ポイントである。

ファイナルらしくレベルの高い試合が続く決勝ラウンドだが、予選から特に際だった試合運びをするチームがいた。それが次に登場する郷＆スマイル（神奈川）ペアと高木&春（東京）ペアである。2チームとも犬種はラブラドールであり、ロングショットを狙うチームだが、驚くべきことにこの決勝までノーミスでポイントを積み上げてきている。しかも、両選手ともフリスビーの投げ方が実に特徴的だ。郷選手の場合は、投げる瞬間右足が前にピョンと出て、手首のみをシットと返す1本足投法だ。スラリとしたスタイルの選手だが、その手から放たれたフリスビーは男性顔負けの飛距離で飛んでいく。一方、高木選手の投げ方はセオリー通り両足を開き、手首の強さで投げる。郷選手とは対照的にガッカリとした体格の選手だが、あまり力をこめずフリスビーを空気の上に流すような無駄の無い投げ方だ。こちらの飛距離も素晴らしい。この独特だが安定したフォームが今大会の中で2人の大きな武器になったことは間違いない。最終的な結果は郷選手74ポイント、高木選手78ポイントに終わった。高木選手が1投多く投げられたことがこのポイント差になった。

最後に登場したのは大浦＆マリーナ（神奈川）ペアだ。スタート前、前脚を地面にグッと押しつけ背中を思い切りそり返らせたマリーナは、フリスビーが放たれた瞬間バネのごとくため込んだ力を一気に後ろ足に移し変え、見事なハイジャンプでキャッチを成功させて観客から大きな拍手を受けた。その後は大浦選手が滑りやすいフィールドに配慮したのか、中距離とロングのショットを交互に使い分け、確実にポイントを稼ぐ慎重な作戦にでた。4投目まではこの作戦が成功したかに見えたが、マリーナにいささか神経質な所があるのか、観客の拍手に反応てしまい、時間をロスして最後の1投にリターンが間に合わなかった。最終ポイントは73ポイントである。

フリスビードッグはスポーツである。そして、スポーツには必ず勝者と敗者が生まれる。当たり前だが、厳しい現実でもあるこの事実を一体何人の選手が噛みしめたのだろうか。選手達1人1人に重いプレッシャーがのしかかっていた事はフィールドの外からも充分感じ取れた。しかし、注目されていたのは決して上位のチームばかりではない。自分なりに頑張っていたチームにはそれ以上に大きな歓声と拍手があった。それを忘れないで、次もまた楽しく大会に参加して下さい。皆さん、お疲れさまでした。

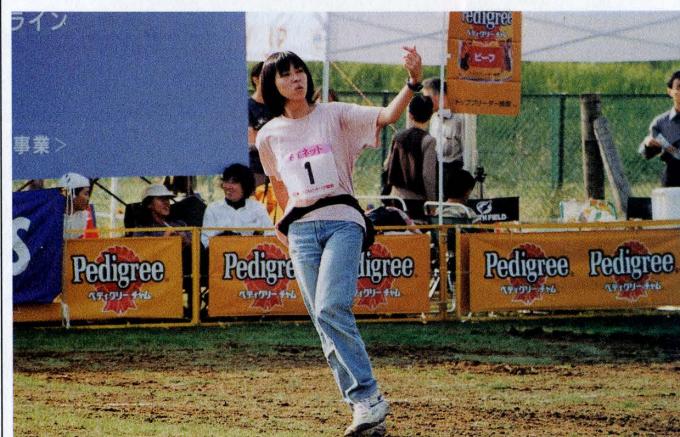


ペディグリーチャム杯 レディース大会

緊張しているのか、それとも楽しくてしかたがないのか。この日はしきりに尻尾を振って走り回る犬達の姿が目につきます。青、緑、白など色とりどりのバンダナから、水玉模様のTシャツ、トラ模様のマスクなどおめかしして大会に出ていることも彼らの心を浮き立たせているのでしょうか。レディース大会はちょっとしたファッショントレードとなっています。

もちろん、競技内容も他の大会に見劣りしていません。埼玉からやつてきたジュリオは生後7ヶ月とは思えない大きな体で力強くジャンプするし、ダルメシアンのジュディはいつも通りのハイジャンプで注目を集めています。特に目を惹いたのが、藤巻&POOH（東京）ペアと作田＆バスケス（東京）ペアです。今回初のエントリーだという藤巻&POOHペアですが、ロングショットをたて続けに成功させ35ポイントを獲得、一方作田＆バスケスペアは風に乗って流れてしまうフリスビーをフリリとした優雅なジャンプでキャッチすると、速いリターンで得点を積みかさね、45ポイントを獲得しました。

いささかはしゃぎすぎて息を切らしてしまった犬もいましたが、競技が終わっても尻尾を振る彼らにとってはそんな事でさえ楽しいことだったのかもしれません。



Konica杯 子供大会

さあ、こちらはあいかわらずの「熱戦」が続く子供大会です。今日もフィールド内にはフリスビーと共に絶叫と歓声、拍手と笑い声が乱れ飛んでいます。

まずは1番手の古沢秀平くんですが、相棒のエミリがなかなかフリスビーを離さず苦戦している模様です。5才の秀平くんにとって、エミリはまだまだ力の強すぎる相棒のようです。「取って！取って！」こう叫んでいるのは東京の加藤選手です。相棒にここまでお願いされたら口口も張り切らないわけにはいきません。右へ左へ飛んで行くフリスビーを猛ダッシュで追いかけます。お母さんといっしょに登場したのは、今大会最年少の旭理沙子ちゃんです。小さな体をめいっぱい使ってフリスビーを投げる理沙子ちゃんですが、惜しくも狙いがはずれて相棒のりんの顔にぶつけてしまいました。末恐ろしい選手もいます。田中つぐみ＆アクア（群馬）ペアと菅原健太郎、康太郎＆ジュディ（東京）ペアの兄弟コンビです。学校を休んできたというこの3人の気合いは半端じゃないです。アクアの性格を知り尽くし、声とジェスチャーで試合に集中させる田中選手、ジュディのジャンプ力を生かしてロングショットを立て続けに放つ菅原兄弟は犬の才能を充分引き出しています。

自分よりも大きな犬を操る彼らのファイトは大人以上です。近い将来、

未来のファイナリスト達は今度はジャパンファイナルで「熱戦」を繰り広げてくれることでしょう。



ネオネット杯 チャレンジ大会

競技が行われているフィールドを見ながらふと顔を上げると、どこからかジャガバターとおでんのおいしそうな匂いが流れてきました。その匂いが空っぽの胃袋を刺激し、思わずそちらに気をとられてしまいそうになります。試合が続くあわただしいAコートと違い、チャレンジ大会が行われたBコートはそんなのんびりとした気配が漂っていました。

今大会で最も多い参加者が集まった試合でしたが、自由参加ということもあってか皆リラックスして試合を進めています。犬もE.C.スパニエル、アイリッシュセッター、ポーリッシュ・ローランド・シープドッグとあいかわらず多彩ですが、パートナーもフリーフライト競技でお馴染みの金子美加選手が出場するなど、人間も多彩です。

フィールドが砂地だったので、口の中に砂が入ったり足が滑ったりと苦労したチームもいるようですが、楽しんだ選手も多かったチャレンジ大会でした。



ネオネット杯 トーナメント大会

明日のファイナルにむけて練習をする者、ファイナルに出られないのとここで優勝を狙う者とそれぞれが自分の目標にむけて戦うのがこのトーナメント大会です。参加チームの中には菅沼マルタンの弟分にあたるジョニーも参加するなど、早くも来年にむけて準備をすすめるチームもあります。

フィールドの右側からやや強い風が吹いていたため、いささかフリスビーが飛びすぎてしまう傾向がありました。各チームとも中距離のショットを狙うなど、対策をたてて試合に望んでいます。決勝は以下の6チームで争われました。

まず登場したのが、藤井＆ペル（神奈川）ペアです。この試合が引退試合になるペルですが、風で浮き上がったフリスビーの落下地点を予測し、ジャンプキャッチでカバーするなどベテランの技も見せつけます。

次は田中＆ジャイミー（静岡）ペア。向かい風になるスタートラインを選択しましたが、フリスビーに予想以上のブレーキがかかってしまったのか、ジャイミーがうまく捕えることができません。

逆に強気でロングショットを狙ってきたのが織田＆Sara（埼玉）ペアです。最初から最後まで強気のロングジャンプを決め20ポイントを獲得しました。

八木＆エビア（兵庫）ペアもまたスタートから30mラインを超えるロングジャンプを狙うが、惜しくもドロップ。その後はジャンピングキャッチで順調にポイントを積み上げます。

ヒロ・サイトー＆エリーゼ（静岡）ペアはやや肩に力がはいり過ぎたのか、最初の1投をドロップしてしまったが、その後はエリーゼがバックキャッチでフォローします。

最も安定していたのが団野＆ケープ（大阪）ペアです。伸びのあるダッシュとリターンの速さで4ジャンピング、1ランニングのキャッチを成功させました。



Konica杯 小型犬大会

「かわいい！」彼らが走っただけで、ジャンプしただけでそんな歓声が客席から聞こえます。大きい犬たちと違って、やや斜めから吹くこの日の風は彼らがフォローするにはいささか難しい風かもしれません。しかし、彼らは持ち前のテンションの高さでフリスビーを追いかけています。人気が出るのは当然でしょう。

もちろん、パフォーマンスだけが彼らの魅力ではありません。ポイントも他の競技に負けないくらい獲得しています。青柳＆ジュリア（埼玉）ペアはこの試合だけで50ポイントを獲得しました。ファイナルでも充分に戦えるスコアです。

この日はお客様の数がやや少なかったのが残念でしたが、そうでなければ、彼らにより多くの女性ファンが生まれたことでしょう。

DOG・DEPT杯 '98公式フリーフライト大会

「地面からのジャンプ以外はジャンプのポイントにならない。また、犬にとっても危険なことだ。」「フリーフライトは流れが大切。始まりは短く、次につなげることを考えること。」前日、ピーター・ブルーム氏から受けたアドバイスを意識してか、2ラウンド目からはジャンプの高さよりも演技の流れや成功率を狙うチームが増えています。必然的にポイント争いもレベルの高いものになっていきました。

「いやあ、重いですよ。30キロはありますから。」京都の塚崎さんは笑顔でそういってくれました。G.シェパードのモネを背中に乗せ、1本足で立つポーズには審査員の席からも拍手が出ていたようですが、やはり相当大変な技のようです。また、大技だけでなく演技の流れにもメリハリがあります。8の字から始まり、おんぶした後又下からショートとミドルのショットを5連発した後、ショートのフリップから背中ごしのボールディングへ移り、また又下のショットをいたる後背中越しのボールディングと思いきや、そのままモネを背中に乗せてポーズ。モネをおろした後、再びミドルと左右のショートショットを放ち、最後はドッグキャッチでフィニッシュ。大技と小技のメリハリがきいていて、わかりやすい演技です。この演技で塚崎さんはこの試合最高の101ポイントを獲得しました。

バタフライ、キャタapult、レッグオーバーなど様々な技があり自由度も高いフリーフライトですが、採点の規準がわかりにくいといった面もあるようです。「基本の演技とかがあればいいのにね。」そんな声も選手たちの間から聞こえてきます。まだまだこれから競技ですが点数が低くてもあきらめず、自分なりの技を増やしてください。



JFA 公式シリーズ第6戦 in 神戸

6月14日(日) 兵庫県神戸市

「神戸フルーツ・フラワーパーク」

恒例となった神戸フルーツ・フラワーパークでの大会もあいにくの雨模様でスタートしましたが、122チームもの参加者の熱気で晴れ間も覗き、盛り上がりも上々となりました。地元関西はもとより中京地区や九州地区からの参加もあり、観戦者もワンちゃん達のハッスルプレーに拍手喝采、acroバチックな技には歓声があがるなど、参加者も観戦者も一体になってフリスピードッグを満喫できました。

スペシャルオープン大会 in 恵庭

7月20日(月・祝) 北海道恵庭市

「恵庭陸上競技場」

前週の帯広に続いて今年2回目となる北海道大会。95チームの参加で熱戦が繰り広げられました。青森や東京、神奈川など本州からの参加もあり、久しぶりに顔をあわせた人たちも多く、大会が交流の場となるのもフリスピードッグの良いところです。観戦者も芝生の上に腰をおろしてのんびりと観戦できる広い会場で地元チームと遠征組との楽しい大会となりました。

スペシャルオープン大会 in 福井

6月28日(日) 福井県坂井郡

「芝政ワールド・さつき広場」

あいにくの雨模様の天候でしたが、地元はもとより大阪、滋賀などの関西勢や愛知などの中京勢、そして静岡、神奈川や遠くは千葉など全国からの参加があり、その熱意に雨も時折やみ、晴れらしい芝生の会場での開催となりました。

観光に訪れた人たちも傘を片手に熱心に観戦し、マイスキッチに歓声や拍手が沸き起こり、参加チームもいっそう熱が入ったようです。

大会の方も接戦となり、優勝決定戦や3位決定戦など全大会決定戦があるという盛り上がりを見せ、雨も気にならないような大会でした。

「今度は天気の良い日に是非またこの芝生の上でやりたいね!」と、みんなが感じた楽しい一日でした。

公式シリーズ第7戦 in 帯広

7月11日(土)・12日(日) 北海道帯広市

「札内川河川敷特設会場」

今回で4年目となる帯広での公式シリーズ戦は、芝生の広々とした札内川河川敷で開催される「'98ふれあいペットランド」(主催:十勝毎日新聞社)のメインイベントとして開催されました。11日はフリスピードッグの初級者対象のHOW TO教室が開催され、あいにくの天候の中、熱心な参加者はJFAのインストラクターから直接指導、アドバイスを受けることができました。

翌12日には、公式シリーズ戦とチャレンジ大会が開催され東北や関東からの参加者もあり、35チームが熱い戦いを繰り広げ、ギャラリーから大きな拍手を集めました。

公式シリーズ戦の決勝では僅差で進出の5チームが決勝ラウンドでも1ポイントの戦いとなり、メインイベントにふさわしい大会となりました。

スペシャルオープン大会 in 静岡

10月4日(日) 静岡県富士市

「富士川緑地」

本年度の公式大会も大詰めにきましたが、この大会では200チーム近い参加があり、1,000人を超えるであろう観戦者とともに晴天のもとフリスピードッグを存分に堪能できました。大会の方も女性チームの健闘が目立ち、各大会とも僅差での戦いに手に汗にぎる熱戦となりました。

チャレンジ大会 in 浦安

10月10日(土)

10月10日、千葉県浦安市・浦安運動公園で恒例となりました、浦安スポーツフェア'98が開催され、当協会も参加しました。

体育の日は本当に良く晴れる日で、当日も青空が広がり秋晴れの中、楽しい大会となりました。今回も様々なニュースポーツの団体47団体が参加し、それぞれのスポーツの魅力をPRし、体験してもらいました。

フリスピードッグを見て楽しんでもらうスポーツとして競技会を見てもらい、来場者の人達に犬とのスポーツの楽しみを紹介しました。又、参加者の中には、自分のチーム順番が来るまでの間、他のスポーツの体験をして、ニュースポーツのおもしろさを実感していました。

スペシャルオープン大会 in 加古川

10月11日(日)

公式シリーズ第9戦 in 川口

10月18日(日)

台風の影響が心配されましたが、競技のはじまる前には雨もあがり、本年度最後の公式シリーズ戦も無事スタート。強風の為フリスピードッグのスローイングが第一の焦点となりましたが、「'98ジャパンファイナルへの出場を目指して最後の挑戦が繰り広げられました。

当日は地元川口市の方々とフリスピードッグの参加者が一緒になって「荒川クリーンエイド」(荒川クリーン作戦)を実施、参加者が楽しむだけの大会ではなく、お借りする会場の地域との連携と協力を実現できた有意義な大会となりました。

第1回スーパードッグス コンペティション in NAGAOKA

11月19日(土)・20日(日)

SSF スポーツ・フォア・オール 神宮外苑大会

11月21日・22日・23日



特集 アナウンス用コメント集

アナウンス用 コメント	(あなたと愛犬とのチームをご選択ください。130字以内) 日頃はお手余る元気を家の内で爆発させてはおこら れていますが、いるアーリーです。フリスピードッグ協会の練習場所がなかなかないのが 悩みです。今後は思いっきり遊んでお互いに集めたら いいと思っています。
----------------	---

コート内をおもいっきり走り回る飼い主?の姿が目に浮かびます。

コメントが考え付かない程、ワクワクする2ラウンドってわかりますよね。

アナウンス用 コメント	コメントは必ずお書きください 【1R用】来年はかわいい子コトハビーニーさんしますように 言葉ひの元気機会でせんすますますます。 【2R用】ここまで来るとは思ってませんでしてたのでコメント ありがとうございます。またアドバイスを貰ってます。
----------------	---

アナウンス用 コメント	コメントは必ずお書きください。 参加賞がお手に入れたての状況です お正月にハンドshakeでもらいます。
----------------	--

フリスピードッグ協会は、家計もお助けします。

アナウンス用 コメント	(あなたと愛犬とのチームをご選択ください。130字以内) 「…………。」 ポイントがほしいよー！
----------------	--

アナウンス用 コメント	(あなたと愛犬とのチームをご選択ください。100字以内) 福井チビ"来て"→!! "上げるの練習"→!! "かわいく"→!!
----------------	---

まずは気合やね。

アナウンス用 コメント	(あなたと愛犬とのチームをご選択ください。130字以内) 産後4ヶ月太ってしまったレディ 体がおもしろ。そのせいかフリスピードッグの練習を ためしほうとういもどもたまはり フリスピードッグが大好きなんですよ。
----------------	--

アナウンス用 コメント	(あなたと愛犬とのチームをご選択ください。130字以内) フリスピードッグをしてみたい のにはかかるけど、レンタルして戻ら ぼいで早く戻ってきて!! 私もうつのことと言えないけど 2人で"かんぱろう"ね。
----------------	---

みんな心の中で
叫んでます。
「早く戻ってきて!!」

初級インストラクター講習会

11月8日、茨城県古河市の古河スポーツ交流センターでインストラクター講習会を開催しました。今回の参加者は17名で、関西地区からの参加もありました。

今回で4回目を迎えた講習会ですが、初めて行った時より、回を増すごとに多少講習内容に変化が見られます。特に実技においてはフリスビーの持ち方であるグリップやスローイング等フリスビーの扱い方に関する実技の変化を見る事が出来ます。これは、フリスビーを楽しむ人達のフリスビーに対する扱い方が上手になった事だと考えられます。講師であるピーター会長もその点を良く見ており、参加者のレベルに合わせたフレキシブルな講習を行っている様です。

今回の講習でも、受講者全員がピーター会長より合格を伝えられ、無事インストラクターとしてスタートを切りました。晴れてインストラクターになつたメンバーの方々は、これから正しいフリスピードッグの楽しみ方やトレーニング方法等を、色々な方達にレクチャーして行きます。

協会としては、これからも皆さんの活躍を期待しています。次回は、又ピーター会長が来日した時にありますので、インストラクター希望の方は、来日を期待していて下さい。

初級インストラクター認定者



本間 穂積 01703 新潟県



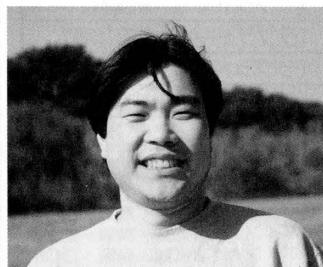
森 慶子 02208 滋賀県



森田 薫 01402 神奈川県



山田ヒロ子 02052 岐阜県



櫻谷 一彦 01620 大阪府



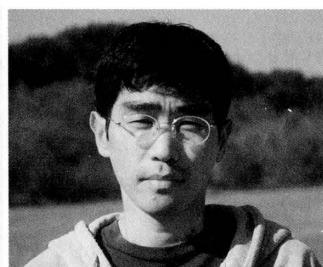
小林 晃 02011 新潟県



青柳 克芳 02426 群馬県



笹崎 和子 01691 埼玉県



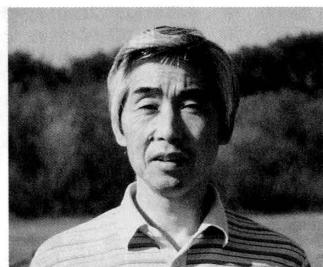
早津 隆 02311 千葉県



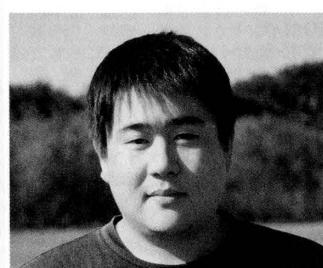
深田 明美 01657 神奈川県



田中 安夫 02010 群馬県



茂木貴太郎 02298 群馬県



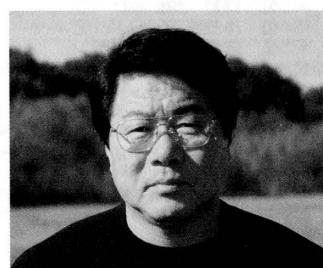
斎藤 寛進 02446 静岡県



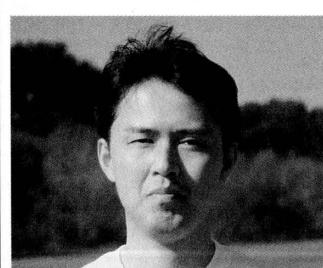
大石 邦晶 01209 東京都



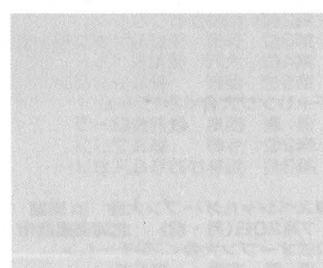
西村 実 02092 茨城県



菅沼 豊 01626 静岡県



田島 通利 02434 栃木県



フリスピードッグ 1998年度 ランキング

第1位	高木 建治&春	(ラブラドール・東京都) 78ポイント	第24位	金納 洋&シーラ	(ボーダーコリー・神奈川県)
第2位	郷 麻亜沙&スマイル(ラブラドール・神奈川県)	74ポイント	第25位	横山 直正&Q太郎	(シェルティー・静岡県)
第3位	大浦 進&マリーナ(ゴールデン・神奈川県)	73ポイント	第26位	八木 卓也&ロビ	(ラブラドール・兵庫県)
第4位	横田 利丸&こなつ(ボーダーコリー・東京都)	68ポイント	//	能代谷正次&海王	(ゴールデン・東京都)
第5位	須藤 充&チット(ミックス・新潟県)	63ポイント	//	田辺佐保子&TUFFY	(ボーダーコリー・神奈川県)
第6位	高野 寿&まい(ラブラドール・東京都)		//	関川 裕介&ケビン	(ラブラドール・京都府)
//	中村 英一&マーキー(Gシェパード・神奈川県)		第30位	高野 寿&れい	(ラブラドール・東京都)
//	団野 悅郎&ケープ(ラブラドール・大阪府)		//	井上 弘之&DIZZY	(ボーダーコリー・東京都)
//	大石 邦晶&オッティ(ラブラドール・東京都)		第32位	柳生 昌男&ブル	(マリノア・北海道)
第10位	ヒロ・サイトー&エリーゼ(ボーダーコリー・静岡県)		//	田中 安夫&アクア	(ラブラドール・群馬県)
第11位	小野 俊史&カイン(ボーダーコリー・愛知県)		//	島田 健次&ウィル	(ラブラドール・静岡県)
第12位	佐倉 一吉&ウラン(ラブラドール・滋賀県)		第35位	白井 武寛&未来	(ラブラドール・東京都)
//	清水 仁&Anddy(ボーダーコリー・神奈川県)		//	篠原 晴彦&ライ	(シェルティー・新潟県)
//	小林 昭夫&めい(ゴールデン・神奈川県)		第37位	角野 和夫&ナジャ	(ラブラドール・京都府)
//	大塚 裕&ジャッキー(ボーダーコリー・埼玉県)		//	内海 徹&バニラ	(バーニーズMD・静岡県)
//	臼井 文弘&サラ(ボーダーコリー・神奈川県)		//	菅原 稔&ジュディ	(ダルメシアン・東京都)
第17位	高坂 健一&Shampoo(ラブラドール・神奈川県)		//	深田 博幸&ルビィ	(ラブラドール・神奈川県)
第18位	上瀧 浩一&チャラ(ラブラドール・千葉県)		第41位	富永 純哉&ジジ	(ボーダーコリー・東京都)
//	菅沼 孝昭&マルタン(ボーダーコリー・静岡県)		第42位	斎藤 敏夫&アッシュ	(ボーダーコリー・埼玉県)
第20位	伊澤 孝&小町(ゴールデン・神奈川県)		第43位	山田 仁&ハイザー	(ラブラドール・新潟県)
//	杉岡 充昭&サピィ(Gシェパード・兵庫県)		//	堀口 満&KENT	(ラブラドール・神奈川県)
第22位	安藤由美子&ジェスターくん(ボーダーコリー・千葉県)		//	田中 安夫&ミニー	(ラブラドール・群馬県)
第23位	松林かおり&ジン(Gシェパード・北海道)		第46位	飯田 博夫&ドンク	(ラブラドール・神奈川県)

戦績一覧

●JFA 公式シリーズ第6戦 in 神戸

6月14日(日) 兵庫県神戸市「神戸フルーツ・フラワーパーク」

公式シリーズ第6戦<参加30チーム>

優勝	杉岡 充昭&サピィ	73ポイント
第2位	菅沼 孝昭&マルタン	72ポイント
第3位	小野 俊史&カイン	64ポイント
第4位	栄 将男&アフロディーテ	54ポイント
第5位	森 正幸&ウインディ	52ポイント
フリーフライト大会<13チーム>		
優勝	横山 直正&MINNIE福来	34ポイント
第2位	塚崎 誠次&モネ	30.5ポイント
第3位	団野 悅郎&ケープ	30ポイント
チャレンジ大会<79チーム>		
優勝	森 慶子&ウインディ	30ポイント
第2位	坂口太一郎&エディ	28ポイント
第3位	香留 一雄&エディ	28ポイント

●スペシャルオープン大会 in 福井

6月28日(日) 福井県坂井郡「芝政ワールド・さつき広場」

公式オープン大会<30チーム>

優勝	菅沼 孝昭&マルタン	59ポイント
第2位	篠原 晴彦&ライ	56ポイント
第3位	団野 悅郎&ケープ	48ポイント
第4位	小笠原千明&アンディ	40ポイント
第5位	佐倉 一吉&ウラン	40ポイント
公式オープントーナメント大会<19チーム>		
優勝	菅沼 孝昭&マルタン	
第2位	須藤 充&チット	
第3位	篠原 晴彦&ライ	3位決定戦
第4位	大石 邦晶&オッティ	により
チャレンジ大会<26チーム>		
優勝	小林 智子&クー	26ポイント
第2位	永田 洋暁&せりか	26ポイント
第3位	中尾 朋子&アル	19ポイント

●公式シリーズ第7戦 in 帯広

7月11日(土)・12日(日) 北海道帯広市「札内川河川敷特設会場」

公式シリーズ第7戦<11チーム>

優勝	秋場 弘一&龍	48ポイント
第2位	松林かおり&ジン	45ポイント
第3位	保里 克仁&エボニー	44ポイント
第4位	大沢 弘和&ベル	44ポイント
第5位	但野 善&ショパン	43ポイント
チャレンジ大会<24チーム>		
優勝	西尾 政美&ローラ	63ポイント
第2位	今野 徹&ブリン	50ポイント
第3位	松林かおり&スカリ	49ポイント

●スペシャルオープン大会 in 恵庭

7月20日(土・祝) 北海道恵庭市「恵庭陸上競技場」

公式オープン大会<29チーム>

優勝	高野 寿&れい	57ポイント
第2位	菅原 稔&ジュディ	55ポイント
第3位	柳生 昌男&ブル	51ポイント

第4位	飛彈野文泰&らん	37ポイント
第5位	新倉 謙吾&ジョン	36ポイント

公式オープントーナメント大会<19チーム>

優勝	高野 寿&らん	
第2位	柳生 昌男&ブル	
第3位	宮崎 宣幸&右京	3位決定戦
第4位	松浦 伸昭&エス	により

フリーフライト大会<11チーム>

優勝	城本 英巳&果梨	31ポイント
第2位	岡村 一雄&つくね	29ポイント
第3位	大塚 裕&ジャッキー	28ポイント
第4位	黒田 浩昭&ベル	28ポイント
* 使用フリスピードッグが規定枚数外のため残念ながら参考ポイントとなりました。		
田丸 和利&ジョリー	31.5ポイント	
田丸 和利&スパーク	29ポイント	

チャレンジ大会<36チーム>

優勝	新倉 弥生&リン	23ポイント
第2位	松林かおり&スカリ	22ポイント
第3位	柳生 昌男&ブッチャ	20ポイント

●スペシャルオープン大会 in 芝政ワールド

9月6日(日) 福井県坂井郡「芝政ワールド・さつき広場」

公式オープン大会<27チーム>

優勝	深田 博幸&ルビィ	59ポイント
第2位	大石 邦晶&オッティ	56ポイント
第3位	堀口 満&KENT	50ポイント
第4位	須藤 充&チット	48ポイント
第5位	飯田 博夫&ドンク	43ポイント

公式オープントーナメント大会<16チーム>

優勝	須藤 充&チット	
第2位	飯田 博夫&ドンク	
準決勝進出	角野 和夫&ナジャ、杉岡 充昭&サピィ	
チャレンジ大会<28チーム>		
優勝	飯田 博夫&ルーカ	34ポイント
第2位	関川 裕介&ブルース	28ポイント
第3位	小室 聰子&みるく	20ポイント

●フリスピードッグ フェスティバル in 緑化にいがたフェア

9月19日(土)・20日(日)

新潟県新潟市「緑化にいがたフェア内 環のエリア」

[19日(土)]

公式オープントーナメント大会<37チーム>

優勝	ヒロ・サイトー&エリーゼ	24ポイント
第2位	菅沼 孝昭&マルタン	18ポイント
第3位	菅原 稔&ジュディ	12ポイント
準決勝進出	山田 仁&ハイザー、須藤 充&チット、茂木貴太郎&ビビアン	

チャレンジ大会<42チーム>

優勝	平館 憲一&アンディー	47ポイント
第2位	長谷川比呂子&クム	30ポイント
第3位	前田 一路&ラスティ	30ポイント
* 2位決定戦		
小型犬大会<5チーム>		
優勝	福田 雅之&ラム	16ポイント
第2位	松岡 直子&エリー	9ポイント
第3位	川口 良明&チャージ	3ポイント

親子ペア大会<5チーム>	
優 勝 長谷川裕輔・元 &クム	26ポイント
第2位 菅原 稔・康太郎&ジュディ	9ポイント
第3位 田中真由美・亜実&ミニー	5ポイント
—3位決定戦により	
男女ペア大会<21チーム>	
優 勝 須藤 充・林美智代&チット	27ポイント
第2位 深田 博幸・明美&ルビィ	25ポイント
第3位 伊澤 孝・美奈子&小町	22ポイント
【20日(日)】	
公式シリーズ第8戦	
優 勝 ヒロ・サイトー&エリーゼ	73ポイント
第2位 菅沼 孝昭&マルタン	64ポイント
第3位 菅原 稔&ジュディ	58ポイント
第4位 井上 弘之&ディジー	56ポイント
第5位 須藤 充&チット	50ポイント
フリーフライト大会<15チーム>	
優 勝 関口 行広&ローザ	35.5ポイント
第2位 高坂 健一&Shampoo	33.0ポイント
第3位 金子 美加&ルナ	30.5ポイント
子供大会<11チーム>	
優 勝 大塚麻利奈&ジャッキー	31ポイント
第2位 田中 亜実&ミニー	29ポイント
第3位 菅原健太郎&ジュディ	24ポイント
レディース大会<16チーム>	
優 勝 深田 明美&ルビィ	34ポイント
第2位 横山 幸子&サクラ	23ポイント
第3位 森井 順子&ジュリオ	22ポイント
—3位決定戦により	
●スペシャルオープン大会 in 静岡	
10月4日(日) 静岡県富士市「富士川緑地」	
公式オープン大会<72チーム>	
優 勝 飯田 博夫&ドンク	74ポイント
第2位 大石 邦晶&オッティー	72ポイント
第3位 郷 麻亜沙&スマイル	66ポイント
第4位 平館 純一&アンティー	63ポイント
第5位 安藤由美子&ジェスターくん	61ポイント
公式オープントーナメント大会<48チーム>	
優 勝 大浦 進&マリーナ	21ポイント
第2位 安藤由美子&ジェスターくん	21ポイント
第3位 田辺佐保子&TUFFY	15ポイント
準決勝進出／臼井 文弘&サラ、平館 純一&アンティー、郷 麻亜沙&スマイル	
フリーフライト大会<9チーム>	
優 勝 大塚 裕&ジャッキー	33.0ポイント
第2位 塚崎 誠次&モネ	31.5ポイント
第3位 塚崎 誠次&カイ	29.0ポイント
チャレンジ大会<58チーム>	
優 勝 林 弘晃&ライヤ	29ポイント
第2位 石井 溫&マジック	28ポイント
第3位 山田ヒロ子&MAX	27ポイント
●チャレンジ大会 in 浦安 10月10日(土)	
トーナメント大会<21チーム>	
優 勝 加藤 典一&富士丸	<ボーダーコリー・東京都>
第2位 山本 雅子&Dion	<ラブラドール・東京都>
第3位 平岡 哲夫&クク	<ラブラドール・千葉県>
チャレンジ大会<59チーム>	
優 勝 高萩 和豊&サム	<ラブラドール・茨城県>
第2位 野呂瀬さゆり&クリス	<ボーダーコリー・神奈川県>
第3位 川島 康範&オリーブ	<ラブラドール・千葉県>
●スペシャルオープン大会 in 加古川 10月11日(日)	
公式オープン大会<40チーム>	
優 勝 小野 俊史&カイン	70ポイント
第2位 杉岡 充昭&サビィ	68ポイント
第3位 郷 麻亜沙&スマイル	63ポイント
第4位 飯田 博夫&ルーク	62ポイント
第5位 団野 悅郎&ケープ	58ポイント
公式オープントーナメント大会<22チーム>	
優 勝 深田 博幸&ルビィ	3位決定戦
第2位 関川 裕介&ケビン	3位決定戦
第3位 関川 裕介&ブルース	3位決定戦
第4位 松岡 典幸&ベティー	3位決定戦
フリーフライト大会<6チーム>	
優 勝 塚崎 誠次&カイ	32ポイント
第2位 塚崎 誠次&モネ	31ポイント
第3位 団野 悅郎&アニー	30.5ポイント
チャレンジ大会<48チーム>	
優 勝 福間 角行&エミー	33ポイント
第2位 高柳 備&イシュート	26ポイント
第3位 村田 和己&フライ	25ポイント
●公式シリーズ第9戦 in 川口 10月18日(日)	
公式シリーズ第9戦<64チーム>	
優 勝 ヒロ・サイトー&エリーゼ	45ポイント
第2位 臼井 文弘&サラ	34ポイント
第3位 大石 邦晶&オッティー	31ポイント
第4位 須藤 充&チット	31ポイント
第5位 郷 麻亜沙&スマイル	29ポイント
チャレンジ大会<64チーム>	
優 勝 飯田 博夫&ドンク	12ポイント
第2位 石井 牧子&マジック	9ポイント
第3位 富永 沙蘭&ジジ	9ポイント
フリーフライト大会<11チーム>	
優 勝 金子 美加&ルナ	30ポイント
第2位 大塚 裕&ジャッキー	25ポイント
第3位 上瀧 浩一&チャラ	24ポイント
〃 甲田 功&リリー	24ポイント

●第1回スーパードッグスコンペティション in NAGAOKA

11月19日(土)・20日(日)

優 勝 山城 一男&チャンブ	<ボーダーコリー・京都府>55ポイント
第2位 大塚 裕&ジャッキー	<ボーダーコリー・埼玉県>51ポイント
第3位 須藤 充&キット	<ミックス・新潟県> 51ポイント
第4位 八木 卓也&エビア	<Aシェパード・兵庫県> 50ポイント
第5位 ヒロ・サイトー&ザ・パーク	<ボーダーコリー・静岡県>49ポイント
第6位 大石 邦晶&オッティー	<ラブラドール・東京都> 49ポイント

●SSFスポーツ・フォア・オール神宮外苑大会 11月21・22・23日

オープン大会<42チーム>

優 勝 大塚 裕&ジャッキー	<ボーダーコリー・埼玉県>66ポイント
第2位 野呂瀬さゆり&クリス	<ボーダーコリー・神奈川県>60ポイント
第3位 郷 麻亜沙&スマイル	<ラブラドール・神奈川県>59ポイント
第4位 菅原 稔&ジュディ	<ダルメシアン・東京都> 56ポイント
第5位 山本 雅子&Dion	<ラブラドール・東京都> 40ポイント

トーナメント大会<13チーム>

優 勝 ヒロ・サイトー&The SPARK	<ボーダーコリー・静岡県>
第2位 山下 健介&Betty	<ラブラドール・東京都>
第3位 柏 正雄&じゅん	<ゴールデン・茨城県>
チャレンジ大会<29チーム>	
優 勝 山下 健介&Betty	<ラブラドール・東京都>
第2位 高萩 和豊&サム	<ボーダーコリー・茨城県>
第3位 真貴田雄一&ロイコ	<ミックス・東京都>

●'98ジャパンファイナル 10月31日(土)・11月1日(日)

ペディグリーチャム '98ジャパンファイナル

優 勝 高木 建治&春	<ラブラドール・東京都> 78ポイント
第2位 郷 麻亜沙&スマイル	<ラブラドール・神奈川県>74ポイント
第3位 大浦 進&マリーナ	<ゴールデン・神奈川県> 73ポイント
第4位 横田 利丸&こなつ	<ボーダーコリー・東京都>68ポイント
第5位 須藤 充&チット	<ミックス・新潟県> 63ポイント

DOG・DEPT杯 '98公式フリーフライト大会<エントリー21チーム>

優 勝 塚崎 誠次&モネ	<Gシェパード・京都府>101.0ポイント
第2位 早川 利幸&クリス	<Aシェパード・千葉県> 96.0ポイント
第3位 大塚 裕&ジャッキー	<ボーダーコリー・埼玉県>93.5ポイント
第4位 横山 直正&MINNIE福来	<ボーダーコリー・静岡県> 92ポイント
第5位 關口 行広&ローザ	<ラブラドール・埼玉県> 92ポイント

*4位5位は難易度+ジャンピングアジャリティーのポイントにより決定。

第6位 小林 昭夫&めい <ゴールデン・神奈川県>

〃 上瀧 浩一&チャラ <ラブラドール・千葉県>

第8位 保里 克仁&エボニー <ラブラドール・北海道>

第9位 黒田 浩昭&ベル <ラブラドール・北海道>

第10位 菊地美奈子&トリッキー <Aシェパード・千葉県>

〃 横山 直正&MINNIE福来 <ボーダーコリー・静岡県>

[10月31日(土) ブレイイベント]

ネオネット杯 トーナメント大会<27チーム>

優 勝 団野 順郎&ケープ	<ラブラドール・大阪府>
第2位 ヒロ・サイトー&エリーゼ	<ボーダーコリー・静岡県>
第3位 大塚 裕&ジャッキー	<Gシェパード・兵庫県>
第4位 中村 英一&マーキー	<Gシェパード・神奈川県>
第5位 藤井 裕久&ベル	<ラブラドール・神奈川県>

特別賞(第6位)小越 洋子&エルザ <ボーダーコリー・東京都>

ネオネット杯 チャレンジ大会<64チーム>

優 勝 野呂瀬さゆり&クリス	<ボーダーコリー・神奈川県>47ポイント
第2位 森井 雄一&ジュリオ	<ゴールデン・埼玉県> 43ポイント
第3位 松永 善智&アキ	<ラブラドール・新潟県> 37ポイント
第4位 葛西 浩一&ハナ	<ラブラドール・埼玉県>31ポイント
第5位 真貴田雄一&ロイコ	<ミックス・東京都> 31ポイント

決定戦により

ペディグリーチャム杯 レディース大会<32チーム>

優 勝 作田真由美&バスケス	<ボーダーコリー・東京都>46ポイント
第2位 山本 雅子&JOSH	<ラブラドール・東京都> 39ポイント
第3位 藤巻 澄江&POOH	<ボーダーコリー・神奈川県>35ポイント
第4位 野呂瀬さゆり&クリス	<ボーダーコリー・神奈川県>34ポイント
第5位 菅原 弘子&ジュディ	<ダルメシアン・東京都> 31ポイント

*欠場：野呂瀬莉紗&クリス

<ボーダーコリー・神奈川県>

Konica杯 予供大会<8チーム>

優 勝 田中つぐみ&アクリア	<ラブラドール・群馬県> 51ポイント
第2位 菅原康太郎&ジュディ	<ダルメシアン・東京都> 42ポイント
第3位 藤巻美乃里&POOH	<ボーダーコリー・神奈川県>38ポイント
第4位 野呂瀬さゆり&クリス	<ボーダーコリー・神奈川県>34ポイント
第5位 加納 知明&ロロ	<ラブラドール・東京都> 20ポイント

第6位 団野 夢華&アニー

<ラブラドール・大阪府>

第7位 古沢 秀平&エミリ

<ラブラドール・東京都>

第8位 旭 里紗子&りん

<ボーダーコリー・大阪府>

特別賞(最年少4才) 旭 里紗子&りん <ボーダーコリー・大阪府>

Konica杯 小型犬大会<15チーム>

優 勝 青柳 克芳&ジュリア	<ECスパニエル・群馬県> 50ポイント
第2位 加部 真巳&遊	<Wコーティー・大阪府> 35ポイント
第3位 松ヶ谷明子&ライト<Wコーティー・神奈川県>	27ポイント
第4位 千葉 裕一&ゆめ	<Wコーティー・東京都> 27ポイント

決定戦により

第5位 後藤 伸一&もん太 <Wコーティー・神奈川県>

毛並みのツヤは、健康状態を知るひとつの目安です。

アイリッシュ・セッターの代表的ブリーダー 新納直樹さん

新しい“ペディグリー チャム ミキサー”は、
素材の品質とバランスを吟味。
健康のための、まさに理想の食事です。

新しい“ペディグリー チャム ミキサー”は、素材ひとつ
ひとつの品質とそのバランスを吟味したことで、消化・
吸収性がさらに良くなりました。その結果、タンパク質や
カルシウムなどの栄養を理想的なバランスで摂取
することができるので、愛犬の健康を身体全体で
維持することができます。「健康であれば、
毛並みだって良くなります。」という
新納さんの言葉どおり、毛並みのツヤ
は健康状態を知るひとつの目安。
だからこそ、健康であることが、
皮膚と毛並みで実感できる新しい
“ペディグリー チャム ミキサー”
は、愛犬にとってまさに
理想の食事なのです。

ホームページアドレス:<http://www.pedigree.co.jp>



“ウォルサム”は、1965年に設立されたペットケアとペット栄養学の研究機関です。獣医学者、栄養学者、生化学者、動物行動学者、繁殖学者など、世界各所に点在する1000人以上の研究者が、専門的な知識と経験をもとにペットの栄養と行動について詳細な研究を続けています。その研究結果は、獣医師などを対象としたシンポジウムやセミナーなどで発表され、世界中の学術団体やペットの栄養学および行動学の分野にも貢献していることが広く認められています。そしてこの“ウォルサム”と共にすべての“ペディグリー チャム”製品は開発されています。

●英語版“ウォルサム”インターネットホームページアドレス <http://www.waltham.com>. © Master Foods



獣医師と開発
「トップブリーダー推奨」™

ペディグリー チャム ミキサー®